



THE 89th Tokyo Yushun Owner Interview

[ダービーオーナーインタビュー]

松島正昭

Masaaki Matsushima

貫き通した「信念」の先に

「武豊が凱旋門賞を勝つ姿が見たい」——。友の悲願成就という夢を追いかけて、全力を注いできた松島正昭オーナー。ブレずに信念を貫き通した先に、ダービーオーナーの栄誉が待っていた。

※インタビューは6月3日に行いました。

軍士門隼夫 = 文
text by Hayao Gundomon

勝って喜ぶ姿もイメージできず
仕事でも経験のない無の境地に

「一夜にして人生が変わりました。ダービーを勝つのがこんなにすごいことだとは思いませんでした」

レースの数日後、インタビューの冒頭で、松島正昭オーナーは心から驚いたような様子でそう言った。

「ビジネスではいろいろな経験もしましたし、朝日杯で初めてG1を勝ったときも、いろいろありました。でもダービーは別格ですね。周囲の反応から何から、すべてが変わりました。あれから毎日、楽しくて仕方ないです」

松島オーナーは、もともと自分が馬主になったのは、古くからの友人である武豊騎手が凱旋門賞制覇という夢を叶えるのを応援するためだと公言している。考えているのはそのことだけで、馬主としての自身に特別な欲はない。だからなのか、有力馬として迎えた今回のダービー前は、なんとも説明できない不思議な気持ちになったという。

「勝って自分が喜ぶ姿も、周りの景色もうまくイメージできなかったんです。ただ漠然と、勝つたらいいなあ、と思いつつ緊張しているだけでした。2年前のマイラプソディ(9着)のときはまったく違いました。今思えば、あのときは勝つまでは難しいと思って、リラックスして臨んでいたんですね」

パドックでも何も考えられず、「無の境地でした」と笑う。

「友道(康夫)先生と助手の大江(祐輔)くんから、馬は落ち着いています、大丈夫ですよ、と言われて安心しました。二人とも自信ありそうでした。僕はもう何も考えられず、とにかく楽しむ、と思うだけで。あんな無の境地は仕事でも経験がないです(笑)」

レースは、いつも直線まで見ないようになっている。早い段階でジョッキーの手が動いているのに伸びてこないのがわかると、そこから先がつかなくて見られないのだ。ところが、今回のダービーはしっかり見ていたという。「4コーナーを回って外へ出して、持ったままのを見て、勝った！」って言いました。そんなの言ったことない



N.Inaba

友道康夫調教師に初めて預託したマイラプソディ。2019年の京都2歳SでJRA重賞初勝利





Y.Takahashi

松島正昭 まつしま・まさあき
1958年2月23日生まれ。京都府出身。自動車販売などを手がける株式会社マツシマホールディングス取締役会長、株式会社キーファーズの代表取締役社長。20数年の友人でもある武豊騎手の「凱旋門賞を勝ちたい」との夢をサポートするため、2015年に中央競馬の馬主資格を取得。勝負服は白、鼠元禄、袖鼠縦縞で、胴が名字の松から「市松模様」、袖は島から「縦じま」をイメージしている。マイラプソディが制した19年の京都2歳S(GⅢ)でJRA重賞初勝利。ドウデュースが制した21年朝日杯フューチュリティSでJ R A G Iを初制覇し、22年には日本ダービー初制覇を果たした。

僕は、友達の夢を応援しているだけ。
ダービーを勝ったけど、僕自身は
最初から何も変わっていません

THE 89th Tokyo Yushun Owner Interview Masaaki Matsushima

「武くんの夢である凱旋門賞制覇に、自分の馬で挑めることになって、すごい喜びを感じています。やっとそのスタートラインに立てた、挑戦権を得られたという気持ちです。10月2日はぜひ皆さん、応援してください」

競馬ファンには、ぜひ凱旋門賞で武豊とドウデュースを応援してあげてほしい、という松島オーナー。
「武くんの夢である凱旋門賞制覇に、自分の馬で挑めることになって、すごい喜びを感じています。やっとそのスタートラインに立てた、挑戦権を得られたという気持ちです。10月2日はぜひ皆さん、応援してください」

「武くんの夢である凱旋門賞制覇に、自分の馬で挑めることになって、すごい喜びを感じています。やっとそのスタートラインに立てた、挑戦権を得られたという気持ちです。10月2日はぜひ皆さん、応援してください」

「武くんの夢である凱旋門賞制覇に、自分の馬で挑めることになって、すごい喜びを感じています。やっとそのスタートラインに立てた、挑戦権を得られたという気持ちです。10月2日はぜひ皆さん、応援してください」

ですし、そもそもいつもは見てもいないので、一緒に観戦していた家族がびっくりに僕の方を見ていました」
じつはダービーの数日前、松島オーナーは武豊騎手からこう言われていた。「去り際に、松島さん、直線半ばで突き抜けてきますから、って言ったんです。そのまま先頭に立ってゴールします、って。そんなこと言うの、初めてですよ。それで本当にそうだったから思わず「武くんの言う通りや、勝った！」って言ったんです」
勝利直後は、心ここにあらずだった。「下(検量室前)へ移動しながら、武くんとうとうふうううに面しようか、どうお礼を言おうかと、頭の中はそんなことで一杯になっていました」
だというのに。口取り写真の撮影後に下馬した武豊騎手は、まずは福原直英アナウンサーと、その後も近くにいたオーナーの関係者たちと順番に抱き合い、喜びを分かち合った。遠くに立っていた松島オーナーはそれを見て我に返り、いつもの調子に戻ったという。「武くんに『オレやオレや、まずオレやろ！』って言いました。もう、みんな大笑いでした(笑)」

欧州の現役馬の購入を検討も
「もう買う必要はなくなりました」

賞挑戦があらためて宣言された。「僕自身は、ただ友達の武くんの凱旋門賞制覇という夢を追いかけてきただけ。それが叶うなら、他の馬主さんの馬でも、こんな嬉しいことはないんです。でもそれをずっと続けてきたら、なんと自分の馬がダービーを勝つという最高の形で返ってきた。そしてその馬で、武くんが凱旋門賞に挑む。本当に、すごいストーリーです」
過去には武豊騎手の凱旋門賞騎乗馬とするべく、ブルームやジャパンなど欧州の現役馬も購入した。今年も、ドウデュースのダービーでの走りや成績次第では、購入を考えていたという。「クールモアにもエイダン(・オブライエン調教師)にも、最初からずっと『タケス・ドリーム・イズ・マイ・ドリーム』って言ってます。今年もいい3歳馬がいたら買う話をしていましたが、ダービーまで待ってもらっていたんです。でも、もうドウデュースで行くので買う必要はなくなりました」
表彰式後のインタビューでは、今後の予定を訊かれた武豊騎手が「オーナーが凱旋門賞、大好きな人ですから」と言っていてスタンドを沸かせた。あのシーン、松島オーナーは「僕じゃない、あんたや」と笑ってツッコむ。
「たしかに僕は馬主になってからずっと凱旋門賞、凱旋門賞と言いつつホラ吹きおっさんなんて言われたりも

しています。でも、僕の夢は凱旋門賞を勝つことなんです。一度も言ったことはないんですよ。僕は、友達の夢を応援しているだけです。今回もダービーを勝ったことで、こうやって僕を取材していただいたりしていますけど、僕自身は最初から何も変わっていません。武くんの友達の、ただの競馬好きのおっさんですから(笑)」
それでも、と松島オーナーは言う。「競馬ファンというのは、そんな僕も含めたストーリーをよく知ってくれているな、いつも思います。知った上で競馬を楽しんで、応援してくれて

いる。本当にありがたいと感じます」
凱旋門賞へは、早くも前哨戦を使わずに臨む方針であることが友道調教師より明かされている。
意外なのは、馬主であり、ジョッキの友人ですらある松島オーナーが、そういったプランに関して意見や希望を言ったりしたことが、過去を含めて一切ないということだった。
「だって、すごいプロがいっぱいいるのに、言うわけじゃないです。ローテーションの話なんてしたことありません。僕はホースマンじゃないですから」
友道厩舎のスタッフには、レースの



昨年の朝日杯フューチュリティSでG I初制覇。武豊騎手に同レース初勝利をプレゼント S.Katsura